

中長期目標 (学校ビジョン)	1	基本的生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成	今年度の 重点目標	1	基本的生活習慣の定着を促す。
	2	夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成		2	生徒が目標を持ち主体的に取り組む授業づくりに努める。
	3	社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成		3	個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実に努める。
	4	基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上		4	視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実に努める。
	5	生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実			
	6	自律性を伴った、生徒の自主性の育成			
	7	自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成			

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
基本的な生活習慣 の定着	生活の自律	○時間を守ることができる生徒が増えている一方、決められた時間に行動できない生徒もまだ若干いる。 ○校舎内外はきれいに保たれているものの、ごみの分別や資源の節約など、環境配慮行動に対する意識は十分ではない。 ○学業とアルバイトとを両立している生徒が半数以上の中、60％程度の生徒が健康的な睡眠習慣で学校生活を送っている。一方、スマホやゲーム等の使用時間が長く、深夜に及んでいる生徒もいる。 ○通信制と定時制2・3年次でむし歯保有率が低下し、ブラッシング、セルフケアの指導により歯みがき習慣化が向上してきている(3回以上13％→28％)。 ○定期的な生徒個人ロッカー内の点検と整理指導により、教材管理が身につきつつある。	○時間を守り、規則正しい生活時間を過ごすことができる。 ○健康管理に関心を持ち、健康状態の向上に努めることができる。また、感染症予防のための対策がとれている。 ○挨拶を交わし、身だしなみを整えることができる。 ○身の周りの美化に配慮し、整理整頓(清掃、ロッカー整理)ができる。	○学業を中心とした健康的な生活を送るために必要な生活習慣について、振り返りをさせるとともに具体例(起床・就寝時刻、睡眠時間、歯と口の健康の保ち方)を提示する。 ○健やかな生活習慣を確立する具体的手立てを考えさせたり、実際に行ったりする場面を設ける。 ○生活習慣の改善について保護者と連携して働きかける。 ○積極的な挨拶や声かけ、丁寧な面談を通して良きコミュニケーションの具体例(対人関係における挨拶ことばや対話)を提示し、習慣づけを働きかける。 ○ロッカー内チェックと整理指導を引き続き行う。 ○感染症予防のため、衛生指導の徹底を図る。			
生徒が目標を持ち 主体的に取り組む 授業づくり	個に応じた 学力の向上	○昨年度の生徒アンケート結果では、授業は工夫されていてわかりやすいと肯定的回答が79.3％、教職員の丁寧な対応については85.6％と高い数値であった。 ○授業での反復学習の時間が不足しており、学力の定着や向上に繋がりがづらい現状がある。一方、定期的な課外指導に継続的に取り組み、力をつけてきている生徒も一定数いる。 ○「まなトレ」の取組は、適応しにくい生徒が若干いるものの、総じて意欲的に取組む生徒が増え、互いに教え合う姿も見らる。また、学び直しや進路実現へ取組にも活用している。 ○昨年度の年間の単位修得率は定時制が67.6％、通信制は84.9％でどちらも目標以上であった。 ○多くの授業でICTを活用しているが、生徒自身で学習を進めるまでには至っていない。	○社会生活を営むために必要な基礎学力を養成している。 ○上級学校の入学試験や就職試験に対応できる学力を養成している。 ○「授業は工夫されていてわかりやすい」と回答した生徒の割合75％以上が継続している。 ○選択した科目を欠席しない環境を醸成する。その結果、定時制生徒の単位修得率は65％以上、通信制生徒の単位修得率は70％以上である。	○公開授業の促進をととして授業の工夫・充実に図るとともに、「まなトレ」・課外指導を実施したり、校外模試を活用したりする。 ○毎日の声掛けや個別具体的な支援、教職員間の情報交換によるきめ細かい指導を行う。 ○ICTのさらなる活用により、生徒個別の状況に応じた学習指導を充実させるとともに、県が支援する遠隔教育システムを活用してその充実も図る。 ○学生教育ボランティア(緑風ソシオ)により学習指導補助を充実させる。			
		○資格試験について、全般的に受験者数は減少したものの、高卒認定試験や危険物取扱者試験など多様な検定等に挑戦した生徒もいた。 ○特別支援教育支援員のサポートで、生徒が安心して授業に取り組めた。 ○本校での高校生活に全体的に満足しているとの肯定回答は、定時制が68.5％、通信制が87.8％で、どちらも目標以上の達成であった。 ○外部講師による授業やガイダンス等、生徒の意欲向上に役立った。 ○資格取得について、生徒は、授業に関連して受験できるものや、希望進路に関連する検定に意欲的に取り組めた。	○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を養成するとともに進路目標が明確となるよう指導している。 ○各種資格試験、検定等を1人が1受験している。 ○高校生活が全体的に満足していると感じている生徒の割合が、定時制では65％以上、通信制では75％以上が継続している。	○「勉強+α」を推進する(α:資格取得等)。 ○各種資格試験、検定のきめ細かい案内を行う。適性のある生徒に対して、個別に受験を勧める。また受験者には個別の支援を行う。 ○特別支援教育支援員による授業のサポートをととして、学習意欲の向上につなげる。			
個々の生徒の課題 に向き合い、自立 と成長を促す指導 の充実	生徒の内面 を理解し それを生か した指導	○全員の生徒への声かけを日常とし、担任による面談(3回以上)、SC(スクール・カウンセラー)面談等が機会を捉え行われ、生徒理解に役立っている。 ○各部課程・学年ごとの生徒情報交換と、SC・SSW(スクール・ソーシャルワーカー)連絡会を定期的に実施している。また、個別支援ケースについては職員間で対応策について協議し、共通理解を図り実践に生かしている。 ○「専門医による相談会」を実施し医療機関との連携を図り、一定の成果が表れている。 ○昨年度は、「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合が85.6％であり、目標値を上回った。	○生徒情報を共有し、関係教職員間で連携をしながら個々の生徒の発達課題に応じた具体的かつ現実的な支援を実行している。 ○全生徒に対し、担任等による面接を年間3回以上実施し、生徒の把握に努めている。 ○入学前不登校(年間30日以上)の欠席)であった新入生徒の状況が改善し、出席状況が前年に比べて向上している。 ○「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合75％以上が継続している。 ○生徒の実態把握のための業務が効率的である。	○担任などによる個人面接や日常会話など多くの機会や様々な場面をとらえ、生徒一人ひとりのかかわりを大切にした指導に努める。 ○教育相談係会を隔週、SC・SSW連絡会を毎月持つことによって、個々の生徒に対する具体的な支援策を策定し実行に移していく。 ○校内支援委員会を活用した組織的な支援により、各部課程をこえた情報共有と個別支援ケースの進捗状況を把握・検討する。 ○医療機関などの各種外部専門機関と連携した支援体制を充実させる。 ○効率よく業務を推進するよう関係教職員と連携する。			
		○昨年度は、「マナーを意識した行動を心掛けている」と回答した生徒は82.1％と目標の値以上であった。また、マナーを意識し、改善への行動がとれると回答した生徒の割合が増加した。 ○就職活動をする生徒の大半は、様々な進路行事への出席や面談を通じて自己理解を深め、規範意識も徐々に高まっている。 ○支援が必要な生徒については、教育相談やハローワーク等の外部機関とも連携し、個々に合わせた指導を行っており、状況に応じた対応ができてきている。	○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を養成するとともに進路目標が明確になるよう指導している。 ○ルールやマナー向上の指導をとおして、お互いを思いやる心や自律性と自主性が身につけている。 ○「ルールやマナーを意識した行動をとるよう心掛けている」と回答した生徒の割合75％以上が継続している。 ○今年度開始された通級指導教室での自立活動が順調に展開されている。	○進路ガイダンスや進路LHR、CA(就職支援相談員)面談等で自己理解を深めさせ、キャリア設計能力や社会性を育成する。 ○声かけや挨拶を交わし、言葉遣いや行動等に十分に気を配らせる。 ○規範意識が身に付くよう、ルールやマナーについて随時指導するとともに自ら考えて行動できるよう働きかける。 ○通級指導において、関係委員会、関係分掌が中心となり、外部専門機関と連携した取組を実践していく。			
視野を広げ、他者 と協力する体験活 動の充実	体験活動の 活用	○「TEASⅡ」(鳥取県版環境管理システム)の環境改善目標は概ね達成できている。 ○昨年度は、緑風祭や球技大会等、生徒会執行部が中心となり企画・運営ができた。 ○県高等学校生徒会連盟大会では、バレーボールなどの競技で優勝するなどの好成績を収め、各部の今後の活躍に期待が持てる。 ○アルバイト就業事業、インターンシップ、ボランティアなどの体験事業に参加した生徒は、自信を得たりコミュニケーションの大切さを学ぶなど、一定の成果を得ている。	○感染症対策などで社会情勢が不安定となる中、生徒自身が自らの役割を考え、行動している。 ○環境目標を達成するための具体的実践を全校で進め、省資源・省エネルギー・SDGs(持続可能な開発目標)に関する意識が高まっている。	○「勉強+α」を推進する(α:部活動、生徒会活動、アルバイト、インターンシップ、ボランティア等)。 ○委員会の活動内容を示し、生徒会執行部が中心となり主体的に企画運営できるように支援する。 ○「TEASⅡ」を適切に運用しながら、環境美化に配慮した実践、エコ活動の推進などを、教職員全員が率先して行う。			
		○生徒面接前にhyper-QU研修を行い、結果をクラス経営に活用している。また、ユニバーサルデザインを学習環境や授業に取入れ、「わかりやすい授業」の展開に努めている。 ○SCの1年、2年生対象定期面接実施、SSWの校外機関への訪問・連携、担任の家庭訪問同行等を実施し、生徒状況等の把握に努めている。 ○昨年度は、「学校に居場所や安心の材料がある」と回答した生徒の割合が71.7％であり、昨年度より微増した。	○生徒が授業や学級活動、生徒会活動、学校行事等に積極的に関わろうとする姿がみられる。 ○年2回実施するhyper-QUの「学級満足度尺度」、「学校生活意欲の結果」において、改善がみられる。 ○「学校に居場所や安心の材料がある」と回答した生徒の割合が75％以上である。	○担任とSC、SSWとの協力によって家庭訪問や外部専門機関との連携を強化して、生徒の人間関係づくりを支援する。 ○ひきこもり傾向の生徒に対して、定期的な家庭訪問等の適切なかわりを粘り強く継続する。 ○hyper-QUや生徒実態把握の結果を生徒面接やクラス経営に積極的に活用する。			

※ はすわらクラブ:学年の枠を超えた多様な体験活動 ※ まなトレ:高校までの学習内容学び直しのための教材 評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)